

ひろしまの遺跡

第130号

弥生時代後期の集落跡

— 正藤遺跡 (福山市) —



空中写真 (南東から) 赤枠内の細長い範囲が調査区

正藤遺跡は福山市神辺町大字道上に所在します。芦田川中流部の北に開けた神辺平野は、大規模な弥生集落や横穴式石室墳、国分寺をはじめとした古代寺院など、多くの遺跡が集まることで有名です。

調査地はこの神辺平野の中央やや東寄りに位置し、北方から延びる丘陵の南麓部にあたります。道路改良事業 (拡幅) に伴い、東西に細長い範囲、553㎡が発掘調査対象となりました。

調査の結果、弥生時代後期を中心とした集落跡を確認しました。検出した遺構は計176基、多くは柱穴とピットで、そこに溝状遺構、土坑が加わります。

調査区内では、竪穴建物など、人が直接寝泊まりしたであろう遺構はなく、掘立柱を備えた建物跡と溝状遺構が中心となっています。あくまで狭い範囲の調査による推測ですが、居住域ではなく、倉庫だけが集中するような区域だったのかもしれませんが。(村田 晋)

発掘調査速報

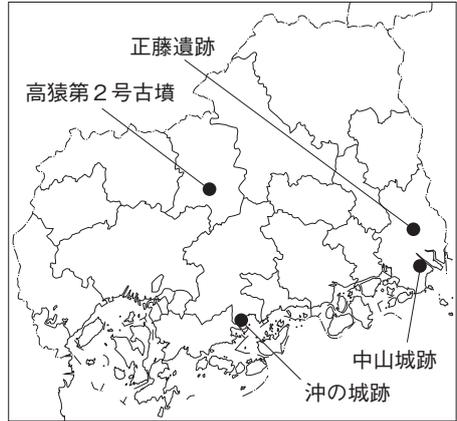
しょうと 正藤遺跡 (福山市神辺町道上)

調査期間 令和5年4月10日～令和5年8月4日

弥生時代後期を中心とした集落跡を確認しました。柱穴、ピット、溝状遺構、土坑など計176基を検出しました。柱穴は、セツト関係を現場で認定できたものは少なかったものの、桁行3間以上の掘立柱建物が2棟復元できました。ピットは杭や棒を立てた柵や杭列の一部となる可能性があります。溝状遺構は、幅1m以内の幅の狭いものが大半でしたが、1つだけ、幅約2.2mと比較的大きな溝を検出しました。溝からは弥生時代後期の土器が集中して出土しました。時期がある程度まとまっていると推測できます。土器出土範囲の一部で炭が散布する箇所があったため、焚火を伴う飲食後に一括廃棄された土器群ではないかとも考えられます。

これら遺構の年代を、個別に特定することは難しいのですが、弥生時代後期の土器が出土遺物の大半となるため、遺跡の時期は弥生時代後期が中心と考えられます。少量ですが、古墳時代から奈良時代の須恵器なども出土したため、弥生時代より新しい時期の遺構も含まれている可能性があります。なお、縄文時代以前に確実に遡る遺物は出土していません。

余談ですが、調査区が周囲より低い位置にあったため、大雨のたびに冠水に悩まされました。ポンプやひしゃくを使い、プールとなった調査区から水を抜く途中、しばしばカメやオタマジャクシなど水の生き物たちと出会ったことが記憶に残っています。水との闘いを経て開催した現地見学会では晴天に恵まれ、135名と多くの方に見学いただくことができました。(村田 晋)



一直線に並ぶ柱穴



大型溝状遺構の調査風景



青空の現地見学会



雨で冠水した調査区



柱を抜き取った痕
(中央の黒い部分)



せまい穴はおたまで掘る！



たかざる

高猿第2号古墳 (安芸高田市吉田町)

調査期間 令和5年4月10日～6月2日

高猿第2号古墳は、多治比川に北面した東西方向に延びる丘陵上、標高270m付近に立地する古墳です。土砂災害による砂防ダム建設に伴い、発掘調査を実施しました。

古墳は、標高の高い方を削りその土を盛り土として利用し、低い方も地山を削って墳丘が形づくられています。最も標高の低い東側には、地山の石材を利用した貼石が施されていました。また、標高が高い西側には尾根を寸断するように直線の溝状遺構が確認できました。古墳に伴って掘られた溝の可能性があり、これらから推定される古墳の規模は、一辺が7～8mの長方形と考えられます。

埋葬施設は箱式石棺が3基見つかりました。最初に確認された石棺 (SK1) は、内法が0.8m×0.15mと小さく、小児用の石棺と考えられます。棺内からは刀子が出土しました。その南西側の石棺 (SK2) では、赤色顔料が一部残存した頭骨など、成人骨が部分的に残っていました。人骨は現在鑑定中ですが、50歳代後半の女性であることが判明しました。また、頭位側の蓋石のそばでは折り曲げられたヤリガンナが出土しています。最も北に位置する石棺 (SK3) は、蓋石がない状態で見つかりましたが、棺内に流れ込んだ土の中に蓋石と思われる石材の破片が混ざっていました。本古墳が位置する尾根には中世山城である高猿城跡があり、墳丘を削って郭として利用するなど城の一部として機能していた様子が調査前の地形からうかがえたため、SK3の蓋石も高猿城築城の際に抜き取られた可能性があります。

高猿第2号古墳は、石棺の造りや出土したヤリガンナの形態から、古墳時代前期に築造された古墳と推定されますが、詳細な築造時期等は今後の整理作業をとおして明らかにしていきます。(岸本晴菜)



空中写真 (北から)



蓋石検出状況 (南東から)



作業風景



SK2人骨出土状況 (南東から)



SK2ヤリガンナ出土状況 (北から)

調査期間 令和5年5月8日～9月20日

中山城跡の調査は、福山沼隈線道路改良事業に伴うもので、城跡のある山を東西に貫くトンネル建設工事部分のうち豎堀の可能性がある場所を2021年度に続き調査しました。

今回の調査区は東斜面で、2021年度調査区の西側と北側です。急傾斜なので作業の安全を確保するための作業用足場や階段、排土用シューター等を設置して発掘調査を進めました。

東斜面上部は急傾斜であることから作業用足場を5段設置し、足場から手が届く範囲(約1.2m幅)をトレンチ状に細長く地山面まで掘下げました。斜面中央北側は傾斜が比較的緩いことからほぼ全面の調査を実施しました。近現代の祠など建物の基礎であったと考えられる方形の石組遺構を確認しましたが、今回調査では城に伴う豎堀等の遺構は確認されませんでした。

遺物の大部分は頂部の郭からの流れ込みと思われますが、土師質土器碗(13世紀後半)、土師質土器すり鉢・鍋(15世紀)、備前焼甕(14世紀前半)、亀山焼甕など城が機能したと考えられる時期の遺物が出土しています。その他、縄文時代の打製石斧・石鏃などの石器が出土しました。

今回の調査では城跡に伴う遺構は確認されませんでした。出土遺物から本城跡は草戸千軒町遺跡とほぼ同時期に機能していたことが明らかになりました。草戸千軒町遺跡の南端に隣接する丘陵上にあることから関係が深かったものと思われます。本城跡は南東方向の海域を見張る役割があったことが考えられます。(岩本芳幸)



調査区全景 (北東から)



調査後全景 (空中写真、北から)



調査区(部分)完掘状況(北から)



調査風景(北東から)



中山城跡全景(空中写真、南東から)

草戸千軒町遺跡

中山城跡・今年度調査範囲

おきのじょう
4 沖の城跡 (東広島市安芸津町風早)

調査期間 令和5年6月26日～令和6年2月上旬

沖の城跡の発掘調査は、一般国道185号改築事業（安芸津バイパス）に伴うものです。

沖の城跡は、南東に伸びる丘陵の先端に築造された海城跡で、郭からは大崎上島など三津湾全体が眺望できます。標高は約22mで、3年前に調査を行った水除浜塩田跡からの比高は18mとなります。県内での海城跡の発掘調査は丸山城跡（尾道市向島町）・倭崎城跡（尾道市瀬戸田町）・葛城跡（豊田郡大崎上島町）に次いで4例目です。

現状では主郭の東側は大規模な削平を受けています。郭の平坦面は北側に向かって3段となり、郭から下側に2段の平坦面が帯郭状に廻っています。現在までの調査では、城跡に伴う遺構や遺物は出土していません。主郭や段状の平坦面は、茅畑として利用する際に、削平されていたようで、出土した遺物は近現代のものでした。

城跡の北東側にある船繫場^{ふなつなぎば}と推定される池の調査は、これからとなります。（山田繁樹）



空中写真（北東から）



主郭 遺構検出状況（南から）



船繫場跡（南西から）



段状の平坦面（北東から）



主郭からの眺め（西から）

南観音考古学教室2023 見る・聞く・やってみるの考古学

南観音公民館と共催で、南観音考古学教室を開催しました。毎年人気の勾玉つくりと、火起こし体験を行いました。勾玉つくりでは、みんなそれぞれの個性が光る勾玉ができあがりました。火起こしは3年ぶりで、職員も事前練習をしっかりと行って本番に臨みました。火起こしはきりもみ式・まいぎり式など4つの方法を体験しましたが、煙が出てもなかなか火はつかず…。諦めずに何度もチャレンジしていくうちに、何人も火起こしに成功しました。起こした火で鑄造も体験しました。最後は職員が土器で炊いたご飯をみんなで試食！とてもおいしいと喜んでくれました。

回	期日	時間	内容
第1回	7月26日(水)	10時～12時	きらきら教室ー勾玉つくり
第2回	8月9日(水)	10時～12時	火起こし体験と古銭の鑄造体験
第3回	8月17日(木)	10時～12時	きらきら教室ー勾玉つくり



きらきら教室(勾玉つくり)のようす



火起こし体験と古銭の鑄造体験のようす

インターンシップ研修

8月4日(金)～10日(木)に、安田女子大学の学生1名が当室でインターンシップ研修を行いました。初日から土器の洗浄などの整理作業、南観音考古学教室の開催準備、資料調査の準備など様々な業務をこなしつつ、火起こしや鑄造の練習を行い、当日に備えました。南観音考古学教室本番では、参加者に火起こしの手ほどきを行うのはもちろん、撮影や土器での米炊き補助など大活躍でした。



土器の洗浄



お米を炊きました

こんなこともやっています

初夏の某日、保管している木製品の水替え作業を行いました。当室では遺跡から出土した木製品を、保存処理を行うまでの措置として、袋やタッパーに入れて水に浸けて保管しています。しかし、時間が経つと中の水が少しずつ蒸発していってしまいます。乾くと変形してしまうため、水分の少なくなった木製品を再度水浸けすることにしました。

まずは袋から出して状態を確認し、表面のカビのような汚れをブラシを使って慎重に落としました。そのあと全体を水に浸けて、なるべく空気が抜けるように袋に入れていき、最後はシーラーで口を閉じたら封入終了です。一見簡単そうに見えるかもしれませんが、湿った木製品は壊れやすいため、一か所に圧がかからないように数人で息を合わせて持ち上げるなど、気を使う作業です。封入がうまく出来ておらず、持ち上げた途端に水が溢れてびしょ濡れになったりもしましたが、きれいな水に浸かった木製品は心なしか気持ちよさそうに見えました。木製品はたくさんあるので、今後も同様の作業を行っていきます。



水分が抜けてしまっています



表面の汚れを落とす



きれいな水は気持ちいい？



息を合わせて作業中



封入が終わりました



小さい木製品もあります

お知らせ

令和5年度 ひろしまの遺跡を語る — 報告と講演 —

開催日：令和6年1月27日(土) 12:50～16:10 (開場12:00)
会場：広島県民文化センター 多目的ホール

事前申込制・応募者多数の場合は抽選 (定員450名)

日程 (予定)

12:50～13:00	開会行事		
13:00～13:20	調査研究報告Ⅰ	「正藤遺跡の発掘調査」	当事業団職員
13:20～13:40	調査研究報告Ⅱ	「高猿第2号古墳の発掘調査」	当事業団職員
13:40～13:55	調査研究報告Ⅲ	「中山城跡の発掘調査」	当事業団職員
13:55～14:10	調査研究報告Ⅳ	「沖の城跡の発掘調査」	当事業団職員
14:10～14:30	休憩 (事務連絡・展示見学)		
14:30～16:00	講演	「埋蔵文化財調査と城郭考古学」	

聴講無料

名古屋市立大学高等教育院 教授/奈良大学 特別教授
千田 嘉博

16:00～16:10 閉会行事

ご希望の方は往復はがきに以下の内容を記入し、送付してください。

7 3 3 - 0 0 3 6

往信

(公財) 広島県教育事業団
埋蔵文化財調査室

広島市西区観音新町
4丁目8-49

山折りとして投函

この面には何も
記入しないでください

返信

申込者のお名前

申込者のご住所

令和5年度
ひろしまの遺跡を語る参加希望

申込者名
申込者住所
申込者の電話番号

参加者名 (同伴者は1名まで)

予めご記入ください

申込期日：12月13日(水) 必着

受講番号 (抽選となった場合は参加可否と受講番号) を記入して返信します。
12月22日(金) までに返信が来ない場合は、当室までご連絡ください。



(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第130号

発行日 令和5年11月30日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp

発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

